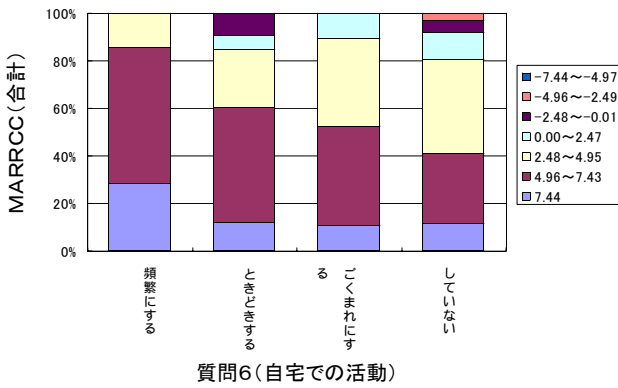
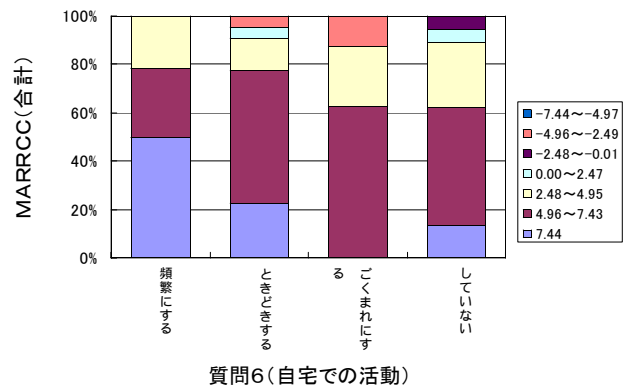


**(3) 自宅での活動の継続性と心身の健康との関係（利用者質問6とMARRCC（合計））**

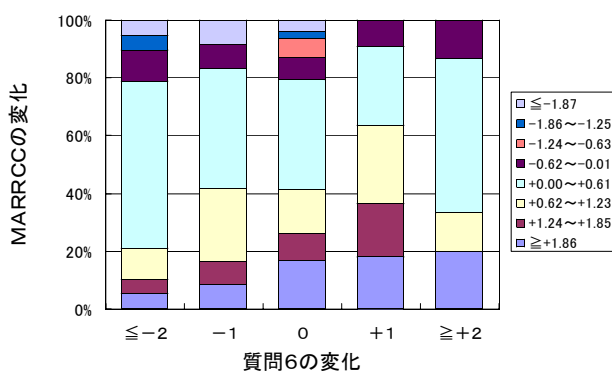
利用者質問6とMARRCCのクロス・事業実施前



利用者質問6とMARRCCのクロス・事業実施後



事業実施前後の変化量



事前調査では、MARRCCについて「7.44」点と「4.96~7.43」点の合計は、「頻繁にする」で最も高く、次いで「ときどきする」「ごくまれにする」「していない」の順となった。( )

また、事後調査では、「7.44」点と「4.96~7.43」点の合計は、「頻繁にする」「ときどきする」で比較的高く、「ごくまれにする」「していない」で比較的低い。( )

「事業実施前後の変化量」を見ると、MARRCCの変化が「+1.86点以上」は、質問6の変化が「+2以上」で最も高く、次いで「+1」「0」「-1」「-2以下」の順となった。( )

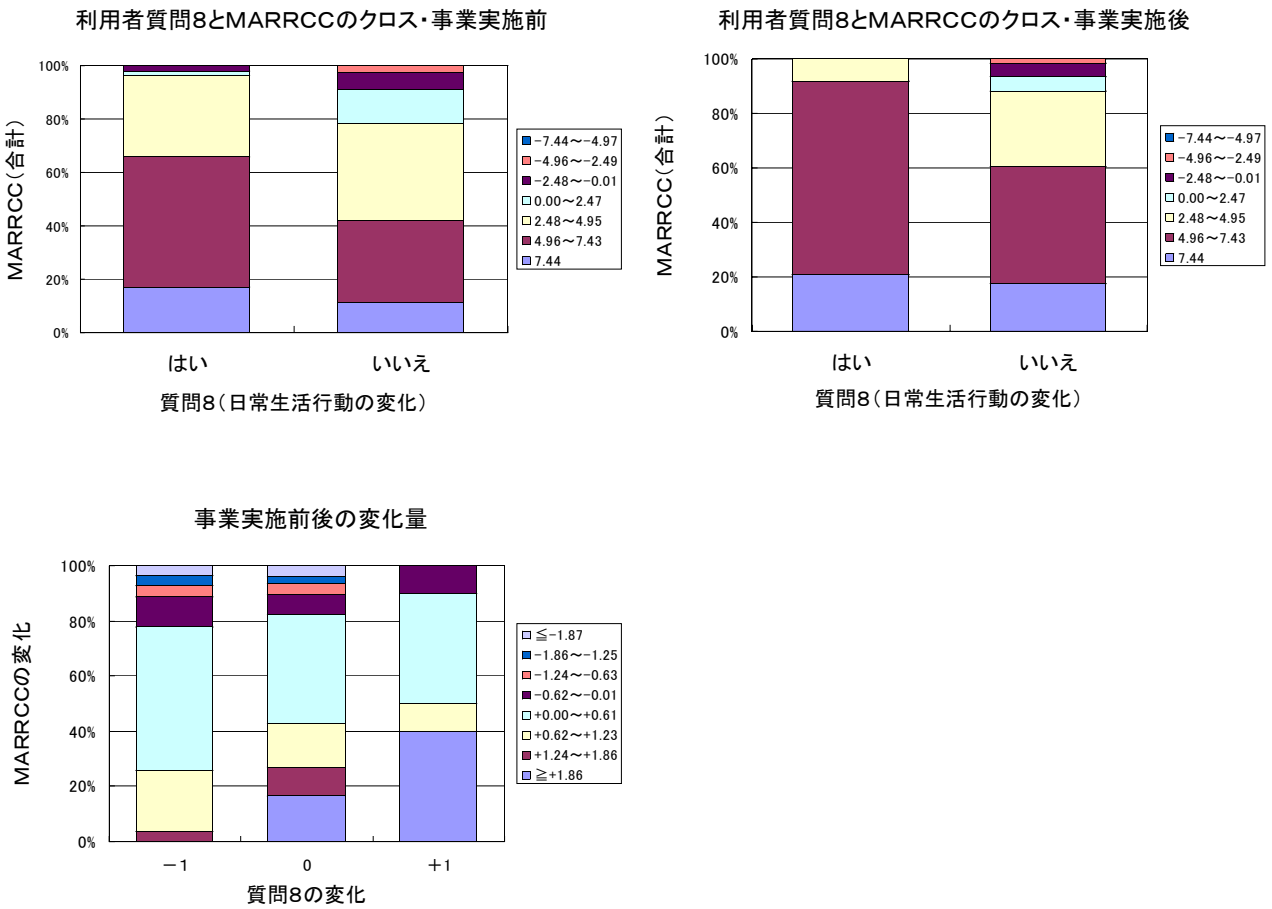
これらのことから、

自宅での活動を頻繁にするほど心身機能が高い傾向にある

モデル事業により自宅で活動を頻繁にするようになるほど心身機能の向上の度合いが高い傾向にある

ものと推察される。

(4) 日常生活行動の有無と心身の健康との関係（利用者質問8とMARRCC（合計））

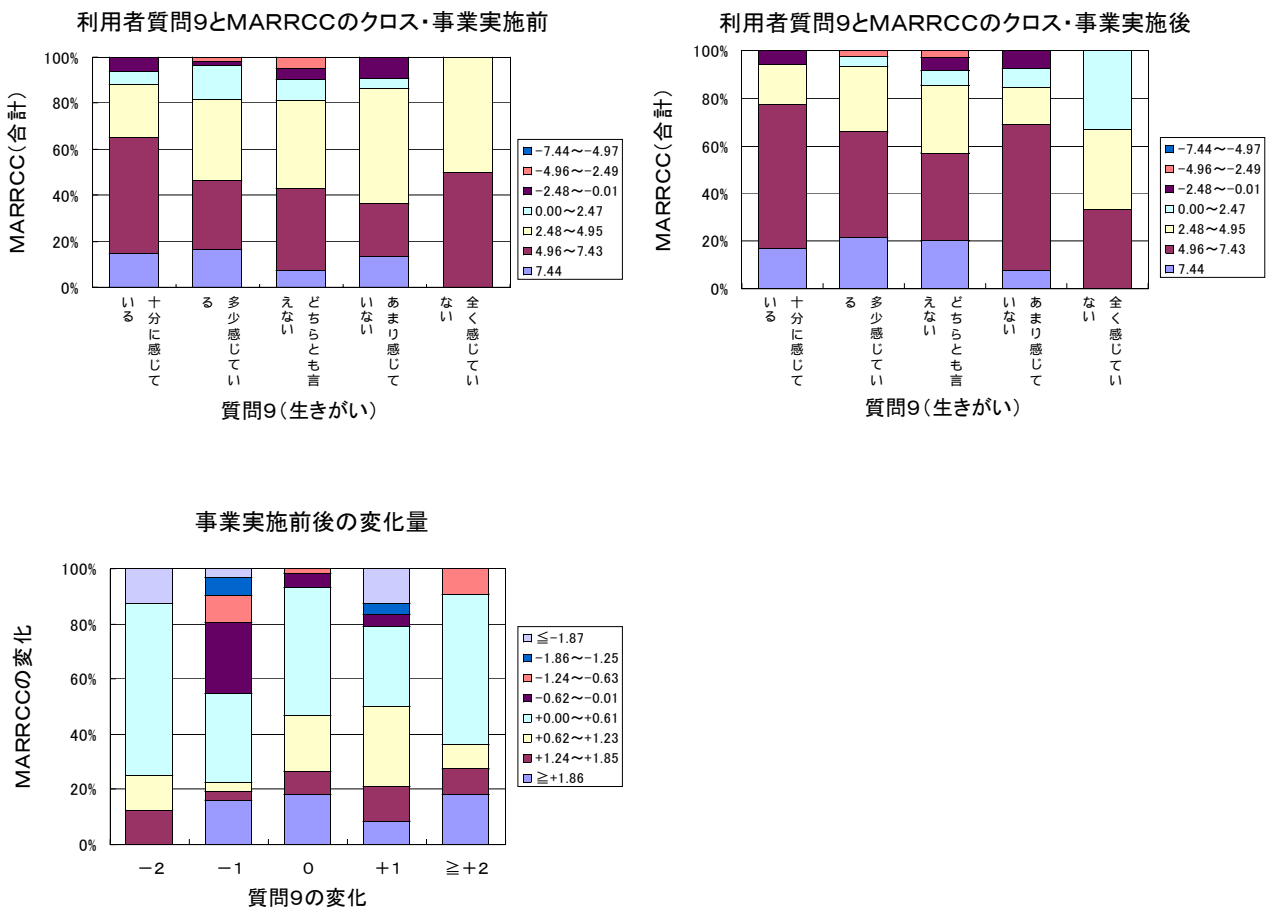


事前調査、事後調査ともに、MARRCCについて「7.44」点と「4.96~7.43」点の合計は、「いいえ」より「はい」で多かった。( )

「事業実施前後の変化量」を見ると、MARRCCの変化が「+1.86点以上」は、質問8の変化が「+1（「いいえ」「はい）」、「0（変化なし）」、「-1（「はい」「いいえ）」の順で高かった。( )

これらのことから、  
 日常生活で何か活動をしているほど心身機能が高い  
 モデル事業により日常生活で何か活動をするようになると心身機能の向上の度合いが高い  
 ものと推察される。

(5) 生きがいを感じる程度と心身の健康との関係（利用者質問9とMARRCC（合計））



事前調査、事後調査ともに、MARRCCについて「7.44」点と「4.96～7.43」点の合計は、「十分に感じている」で最も高かった。

「事業実施前後の変化量」を見ると、MARRCCの変化が「+1.86点以上」は、質問9の変化が「+2以上」で最も高かったものの、顕著な特徴は見られなかった。

これらのことから、生きがいを感じるほど心身機能が高い傾向にあるものと推察される。